

東北ダンプ



【発行】全日本建設交通一般労働組合(略称・建交労)東北ダンプ支部
〒963-8025 郡山市桑野2-3-2

建交労福島ダンプ内

2025年7月1日発行 NO.37

TEL024-933-4511 fax024-921-1868

Email: fukusimadanpu@mtj.biglobe.ne.jp

組合の説明が終わった後に、出席している副所長などに「長時間のご清聴ありがとうございました。ご理解いただいたでしょうか。何なら今ほどの話をDVDで作成して、皆さんに格安でお分けします」と言うと、それまでの緊張が一斉に解け、ふふふっと笑って「歴史的な経過も含めて、なぜ12条団体のダンプを工事で優先使用するのがよく理解出来ました」との回答が返って来ました。

福島、宮城、秋田の県警本部では「建交労の活動はよく理解しています。交通安全活動のために努力されていることに感謝します」などの反応があり、ダンプの違反行為などは、悪質なものを優先して取り締まって行きます。事故防止対策連絡会のメンバーに建交労が入ることに異論はありません、などの回答がありました。

青森県建設業協会では、副会長と事務担当の役員に対応して貰いました。組合からは遠慮なく「建交労が入らない現場の単価は極めて安い、当面57,000円程度を求める建交労ダンプの優先使用が運賃引き上げのカギとなっている、経済的には対立するが会員企業に理解を広げて欲しい」と申し入れました。(写真下)

協会からは「車両代や軽油の値上げもあり、皆さんの苦労は理解している。今後とも改善に努力して行きたい」との回答がありました。

キャラバン行動は、東北各県6人の専従者が通して、各県では仕事を休んで参加する現場の仲間が一体となって活動します。現場の仲間にも、役所に渡す資料と同じものを見てもらいながら、交渉現場では学習をして貰っています。自分たちの生活向上のため取り組まれるキャラバン行動ですから、自分たちがなぜ57,000円(税込62,700円)で就労するのかを理解する必要があります。

専従者は5泊6日の旅となり身体と財布もきつくなりますが、夜は食事をしながら1日の反省会をやっています。行く先々の街の風景や言葉の違いは、一服の休息になります。飲み屋に行けば新たな出会いもあります。疲れを溜めるだけのキャラバンでは長続きはしません。中国の「史記」に「禍福はあざなえる縄のごとし」とのことわざがあります。苦しみも楽しみも表裏一体のものです。

よし！キャラバンの成果を持って、明日からがんばろう。(M)

※キャラバン⇒隊を組んで砂漠に行く商人の団。ペルシア語の「カールヴァーン」が語源。



最後には「ふふふっと笑う」

～第32回全国ダンプキャラバン「東北コース」終わる

第32回東北ダンプキャラバン行動を、6月23日(月)から27日(金)までの日程で取り組みました。福島県郡山市を出発したキャラバン隊は、山形⇒仙台⇒湯沢⇒由利本荘⇒秋田⇒盛岡⇒青森と、時折強く降る雨にも負けず、自分たちの使命を自覚して奮闘しました。

5日間の日程で訪問した先は、国交省河川国道事務所、県庁土木部、県警本部、ネクスコ東北支社、建設業協会など19ヶ所でした。今回の行動で特に力を入れたのは、単価57,000円(税別)で就労する現場を東北各地に作るため、「政府交通対策本部決定」を発注機関に十分に理解させることでした。(上の写真は、国交省福島河川国道事務所)

安倍、菅、岸田の各首相は、政権の言うことを聞かない役人を干し上げる独裁的な政治を続けて来ました。そのため役人は、法律や規則を遵守した仕事がしづらくなり、ついには自民党のパーティー券などをたくさん買っているゼネコン、建設業者に対して、法令遵守の徹底を曖昧にするようになりました。

どこでも交渉時間は約1時間ですが、キャラバン隊は精密に作成した資料を基に、各訪問先で40分の説明を行ないました。日本は敗戦国であったが、昭和25年に勃発した朝鮮戦争の特需にあやかり、10年間で経済復興をしたこと。昭和30年以降の高度経済成長の中で、ダンプ事故による犠牲者が毎年800人も出たこと。昭和41年12月には、保育園の前で子どもたち10人が犠牲になる「猿投事故」が発生して、財界人もダンプ事故根絶の声を上げたこと。建設業法や運送法の改正ではダンプ事故根絶に対処できないため「ダンプ規制法」を作ったこと。ダンプ規制法の核心は「一匹オオカミも加入する12条団体を結成させ、この団体に運賃引き上げの荷物を背負わせる」としたこと。そのためには全ての公共工事で12条団体の優先使用措置を取らせること。その事を契約書に明記して徹底して実行すること、などが説明の主な流れです。

晴釣雨読(せいちょううづんく)

溪流釣りには、思わず笑ってしまうような出来事や出会いがあると思う▼釣り経験の浅い20代に岩魚釣りをした時の事で、岩陰にじっと潜む魚を見つけ、慎重に竿を何度も振り込むが反応がない。それでも釣りたい一心で仕掛けを何度も振り続ける。あきらめかけ、最後の1投にしようと思いを込めて振り込むと魚が先ほどまでとは違った動きをしたその一瞬、鉤に掛った。嬉しくて心でガッツポーズしたとほぼ同時に、突然後ろから「カサカサ」…「ガサツ」の物音で!!振り向くと、なんとサルが居るではないか!!私が必至で魚と対峙している様子を観察していたようだ▼私が岩魚を驚かしたままサルに視線を向けると、まるで「釣った魚をくれ?」と言わんばかりの表情に見えて思わず苦笑いをしてしまう。釣りあげた魚の鉤を外すしぐさを大げさにするが動く気配がない。私は心の中で「食べたいのかあ?」とつぶやきながら鉤を外すと、サルが魚に視線を向けて欲しがっているしぐさをするので魚をあげることにし、足元に投げた。するとすかさず魚を握って姿が消した▼ある日別の溪流での事、この溪流を訪れると決まれば、地元知られる大物の宝庫である大淵を必ず攻める事になっている。この日も丁寧に、丁寧に攻めるが微かなアタリがあるもののなかなか釣れる気配がない。餌を変えてみようかと数に目を向けるとバツが居た。バツを捕まえ餌にして水中へ、餌が流れた途端に食いついた▼予想以上の大物で取り込みは思ったより時間がかかったが、釣りあげほっとして周りを見渡すと対岸の藪からカモシカが頭突き出し、魚のやり取りを見ていたのではありませんか? カモシカに向けて「やったぜ!!」と私が小声を発すると、鼻先の上に2度振り上げ「ビビビ」と鳴き声を出し藪の中に消えて行った。初めての経験で脳裏に焼きついている。▼源流釣りは自然界の動物との思いがけない出会いが溪流釣りの醍醐味でもある。



高橋溪峰

東北ダンプ支部第4回定期大会は
11月8日(土)午後1時～5時
宮城県内を予定しています。



参院選に願いをこめて

参院選で変えたい<消費税減税>

財源は**法人税引き上げ**で
大企業には負担能力がある



時の的

飯田光徳 社会福祉法人「野の花福祉会」

「米騒動」は日本の農業を考える好機

2000円の古古米が日々話題にあがる。備蓄米の放出だ。高く仕入れた銘柄米が、放出によって昨年程度の半額になるとは誰も思っていないが、小泉農水相の扇動は続く。

昨今、米国が自国第一主義に陥る中、世界では自国に必要な食料は自分たちで作るといふ流れが生まれつつある。だが日本の食料自給率はわずか38%。安保上からみてもミサイルを打ち合う前に、輸入が止まれば日本は飢え死にすることを冷酷に見るべきだ。

今回の「米騒動」の原因は自民農政の失敗にある。政府はこの間減反・減産を農家に押し付けてきた。そして米生産基盤を所得補償制度の全廃などによって弱体化。価格を市場任せにしたことで生産者の米価は半分となり、米農家はこの20年間で3分の1となってしまった。さらには、ミニマムアクセス米として無関税で20年間毎年77万トンもの米が輸入され、米農家に打撃を与えた。

日本の場合、主食の米を作る農家に対し再生産可能な価格と所得の下支えなしに、適正な消費者価格での提供は困難だ。やはり国の責任ある制度が必要。そのことで生産者と消費者の分断が乗り越えられ後継者も生まれる。

農産物生産と共に国土と自然環境を守る農業の多面的機能も注目したい。米農家をつぶせばその機能は簡単に失われる。昨今アグロエコロジーという言葉聞く。生態系を生かした持続可能な農業などと訳されることもある。豊かな国土を将来の人たちに手渡すためにも、国土保全産業としての農業を守らねばならない。

暑中お見舞い申し上げます
今年の7月は参院選があります
投票に行きましょう



建交労フェスタに
参加して(6.6-8)

6月6日(金)から8日(日)にかけて建交労フェスタが広島県で行われました。東北ダンプ支部からは青森1人、岩手4人、秋田3人、福島5人の13人が参加しました。

建交労フェスタというネーミングはあまり馴染みがありませんが、正式には「建交労学習交流集会」といいます。3年に一度、全国の建交労の組合員が集まり開催しています。現地の県本部や全国の青年部、女性部の方々が実行委員となり複数のオプションツアーも計画され、私たち福島分会の仲間4人は全国から集まってきた総勢40名の青年部の仲間とともに2日目の活動に参加しました。

広島原爆投下から80年。広島平和公園では、慰霊碑をはじめ原爆ドームをまわりながら「原爆の語り手」の川又栄子さんから話を聞きました。(写真左上)

(写真右上は、3日目の企画…組合員で満98歳の廣木昭代さんを囲んで)

一瞬にして灰となり、今もお原爆の後遺症に苦しむ方もいるということをお聞きしました。想像絶するような悲惨な状況だったと改めて感じさせられました。原爆の恐ろしさを多くの人に伝え核兵器廃絶の声を大きくして平和な世界へ繋げていく責務が労働組合、そして私たちにあると思います。

平和公園を後にして、昼食は平田観光農園の中にある BBQ 会場で各グループに分かれてコンロを囲みながら交流しました。夜は有名な広島お好み焼き店を貸し切り、お酒をくみ交わしながら全国青年部の仲間と語り合いました。

PS. お好み焼き美味しかった～

福島分会 半澤正樹

建交労フェスタに初めて参加しました。秋田から広島までの飛行機乗り継ぎがスムーズだったので、案外近いと感じました。初日は広島公園の中に国際会議場で被爆者の被爆体験を聞き、全国の仲間との夕食交流会に参加しました。2日目は終日自由行動だったので、路面電車で宮島口まで行き、ロープウェイで弥山の獅子岩まで登りました。その日は、薄曇りで遠くまで望めず残念でしたが、晴れた日の景色は最高だと思います。さらにJRで山口県岩国市の錦帯橋まで足を延しました。

次回も参加することができたら、オプションツアーに参加して他県の方々との交流も深めたいと思います。それには、軍資金?を貯めなければ、どこにも行きません。

秋田分会 伊藤玲子

